

8. タリウム SPECT にて描出しえた副腎外褐色細胞腫の 1 例

渡邊 卓 大橋健二郎 北川あず真
宮崎 治 大山 行雄 石川 徹
(聖マ医大・放)
方波見卓行 (同・三内)

症例は 29 歳女性で、排尿後の頭痛を主訴に来院した。13 歳より同症状が出現し、27 歳の時、高血圧と頻脈を指摘され、この頃に動悸と発汗過多も自覚し、28 歳で収縮期血圧 200 mmHg 以上、体重減少、視力低下を認め入院となった。排尿時の血圧上昇、起立性低血圧、四肢振戦があり、内分泌検査にて血中エピネフリン上昇、尿中エピネフリン、ノルエピネフリン、VMA、HVA 上昇が著明であった。腹部画像診断にて副腎に異常はなく、膀胱後部に腫瘍が描出され、タリウム SPECT にて同部位に強い集積を認めた。褐色細胞腫のタリウム像については、1983 年中條らの報告があり、機能性腫瘍に集積があることが知られているが、われわれの知るかぎりでは副腎外褐色細胞腫の SPECT 像についての報告はない。副腎髓質腫瘍に関しては本来、MIBG の取り込み像を調べることが望ましいが、MIBG が使えない現在、非特異的だが、タリウム SPECT にて腫瘍を描出しえたので報告した。

9. 白血病の経過中に ^{99m}Tc -HMDP 骨シンチグラフィで骨外に異常集積を示した 2 例

伊藤 敦子 中西 文子 (信州大・放)

骨シンチグラフィでの脾臓や心臓の描画は、まれな現象である。白血病の治療中に、それが認められた 2 症例を経験したので報告した。症例 1 は 14 歳、女性。約 1 年 4 か月前より急性前骨髄性白血病で加療中。高カルシウム血症を起こしたため、骨転移を疑い、骨シンチグラフィを施行したところ、脾臓への異常集積が認められた。頻回の輸血歴から、脾臓への鉄の沈着が原因と思われた。症例 2 は 15 歳、女性。6 か月前より急性リンパ性白血病で加療中。原因不明の高カルシウム血症を起こしたため、精査のため、骨シンチグラフィを施行したところ、心臓や、他の軟部組織に異常集積が見られた。転移性石灰化が原因と思われた。

10. MRI で疑われ、肝シンチグラフィ動画像で描出された比較的稀な上腸間膜静脈一下大静脈短絡の一例

今西 好正 早川美奈子 桑原 雅子
今野 彰子 清水 弘仁 三橋 寛
伊藤 隆志 藤川 光弘
(聖マ医大東横病院・放)
水谷 和正 川添 修身 (同・放部)

症例は、顔面浮腫および咳・痰を主訴に来院した 69 歳の女性。臨床検査では pancytopenia、血中アルブミン・総コレステロールの低下と胆道系酵素の上昇が認められ、上腹部 MRI では脾腫とともに、脾頭部右前方から右腎の腎門部上方にほとんど信号のない構造物が認められ血管であることが最も考えられたが、腸管内ガス像の可能性は否定できなかった。肝シンチグラフィ動画像では脾臓描出直後から肝右葉のやや下方に異常集積像が 75 秒以上にわたって認められ、生駒の診断基準によって静脈瘤と診断された。後日行われた CT と脾動脈造影で脾静脈から上腸間膜静脈へ逆流した血液は胃結腸静脈幹から前膵十二指腸静脈を介して後腹膜の側副血行路を形成し、下大静脈へ流入しているのが確認された。脾頭部周囲に生じた比較的稀な側副血行路が、肝シンチグラフィ動画像によって診断された肝線維症の症例を文献的考察を加えて報告した。

11. ^{99m}Tc -PMT 肝胆道シンチグラフィによる肝胆道機能評価

今井 幸紀 村田 広重 西島 樹重
伊藤 進 (埼玉医大・三内)
西村 克之 鈴木 健之 宮前 達也
(同・放)

^{99m}Tc -PMT 肝胆道シンチグラフィを用いて、慢性肝疾患および胆道疾患の肝胆道機能を検討した。対象は肝硬変 17 例、慢性肝炎 6 例、原発性胆汁性肝硬変 (PBC) 6 例、胆嚢結石症 (以下胆石症) 12 例、胆道ジスキネジア 3 例、対照 6 例の計 50 例である。 ^{99m}Tc -PMT 静注後 60 分間のデータより、肝全体、右葉および左葉に ROI を設定し、核種の肝での摂取排泄について解析し、さらにセオスニン負荷による胆嚢収縮率を求めた。慢性肝疾患では病変の進展に伴い肝摂取率、排泄率の低下を認め、また胆石症でも軽度の摂取排泄率の低下を認めた。